

五月晴れに誘われて 蔵の街めぐり



こんにちは、あずまです。今月は健一さんと一緒に、「栃木」を訪れました。青い空に鯉のぼりが泳ぐ下を、遊覧船に乗って色波節を散策しました。舟から見る蔵の街は、格別なものがありました。船頭さんのお話も楽しかったです。(MAPの①)

今回の登場人物



東 健一

あずまのボーイフレンド。環境工学と専攻する大学院生。スキーをはじめスポーツも得意。



業平あずま

業平家の長女。母親が経営する小学生向け英会話教室を手伝う。趣味は旅行。



北千住駅から特急スパesiaに乗って約55分で『栃木駅』に到着しました。「東武・蔵の街とちぎ散策クーポン」を手に、街歩きをスタート!

栃木

(とちぎ)

栃木市には江戸から明治にかけて商都の歴史を伝える蔵の街並みがいまでも残り、2009年には「美しいまちなみ大賞」(国交省)を受賞。古くて新しい、観光地として注目されています。そんな栃木にお出かけして、ゆったり街並みを満喫するなら、「東武・蔵の街とちぎ 散策クーポン」がおすすめです。往復乗車券や特急「スパesia」の特急料金が割引になるほか、蔵の街での観光施設や各店舗でうれしいサービスが受けられます。



「とちぎ山車会館」にあった劉備玄徳の山車です。巨大な本物の山車3台を常時展示し、背景としてジャンボスクリーンに映像を流し、「とちぎ秋まつり」を再現しています。隔年開催の秋まつりは、今年が開催年です。11月には再訪して、すべての山車が街を練り歩く姿を見てみたい!

(MAPの◎)



巴波川に沿って建つ「蔵のまち直売所」です。朝採り旬野菜と低農薬米、国産大豆100%の手作り田舎味噌など、こだわりの食材がそろっていました。長さ35cmのソーセージがうずまく「うずまバーガー」も人気(土日限定)。(MAPの㉑)



巴波川の倭橋のたもとにあった「長栄軒」でランチを。坦々麺がおいしいと評判のお店。麺はどれも夕顔の実の粉(干籾の原料です)を練り込んだ「夕顔ラーメン」です。栃木名物、じゃがいも入り焼きそばもありますよ。(MAPの㉒)



ここは「とちぎ蔵の街美術館」。約200年前に建てられた土蔵3棟を改修したもの。通称「おたすけ蔵」と呼ばれ、現存する蔵では最も古く大規模なものだそうです。華麗なドレステン磁器の企画展が開催されていました。(MAPの㉓)

舟運時代の巴波川に タイムスリップ

江戸時代の栃木は例幣使街道の宿場町でした。さらに、町を流れる巴波川の舟運で江戸との交易が盛んで、豪商たちが白壁土蔵を川の両岸に沿って建てていきました。さらに明治初期には、十数年間の短い期間でしたが栃木県の県庁が置かれ、北関東有数の商都として繁栄。栃木の蔵の街並みは、その歴史が色濃く残されたものなのです。

栃木駅北口から10分ほど歩くと巴波川に出ます。昔の舟運では両岸の綱手道から数人がかりで川を遡る舟を綱で引いていたそうです。現在はその跡が遊歩道に整備され、鯉や鴨が泳ぐ清流を眺めながら気持ちよく散策することができます。

やがて見えてきたのは、川沿いに1200mも続く黒塀の奥に建つ白壁土蔵群。江戸時代から木材回漕問屋を営んでいた豪商の家屋「塚田歴史伝説館」です。この風景はまさに当時の舟運で賑わった巴波川にタイムスリップしたかのよう。じつはここにはいまも舟運があるので。昔ながらの川舟に観光客を乗せて蔵の街を案内する「蔵の街遊覧船」。15分ほどのクルーズが楽しめます。

なおも巴波川に沿って歩くと、「横山郷土館」。こちらは明治時代の麻問屋と銀行の建物で、両側に相対して石蔵をもつ両袖切妻造りという建築様式は、他では見られない独特なものです。

巴波川の流れはここから明治期の県庁敷地を巡らせた「県庁堀」と呼ばれる堀割に分流。その奥には、大正時代に建てられた町役場がそのまま市役所別館として使われています。屋根に時計台がある木造の洋館は、大正ロマンあふれる佇まい。



『路傍の石』『真実一路』などで知られる文豪の資料を展示する「山本有三ふるさと記念館」です。館内には愛用の机や椅子、帽子、直筆の原稿や映画化時のポスターなどが展示されています。(MAPの④)



横山家は麻問屋と銀行(栃木共立銀行)を営んでいた明治の豪商。その豪商の往時を偲ばせる帳場などが残る「横山郷土館」です。大正時代に建てられた洋館や、市内随一といわれる日本庭園もあり、ツツジが見事でした。(MAPの⑤)



巴波川を挟んで、横山郷土館の向かりにあった「茶房 蔵や」で一休み。喫茶メニューのほかランチもいただけます。私は抹茶クリームあんぱんに大満足。健一さんは、コーヒーが美味しいと言っていましたよ。(MAPの①)

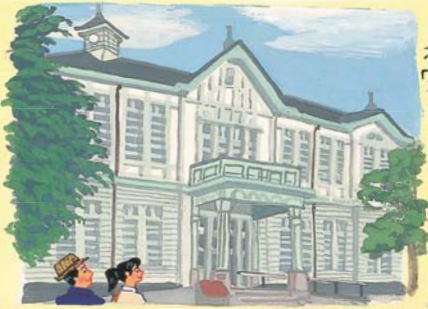


「栃木のお伊勢さま」とも呼ばれる「神明宮」は、栃木市の総鎮守。イラストの拝殿も、奥にある本殿も市指定重要文化財。本殿は伊勢神宮と同じ神明造しんめいづくりでした。神楽殿には、鯉のぼりと五月人形が飾られていましたよ。(MAPの⑧)

いまも現役 栃木の街角に残る蔵たち

栃木の中心街を貫く大通り(旧幣使街道)にも多くの蔵が並んでいます。「とちぎ蔵の街観光館」は、明治の荒物問屋の見世蔵みよせくら(店舗として使われた蔵)。江戸期の土蔵3棟を改修して開館した「とちぎ蔵の街美術館」では、栃木市ゆかりの作家の作品を収蔵しています。江戸時代の美術品を展示する「あだち好古館」は、江戸から明治にかけて建てられた呉服商の蔵です。その他にも、江戸期の見世蔵を改修した「山本有三ふるさと記念館」。『路傍の石』で知られる山本有三は、郷土出身の作家なのです。

また、栃木では各町内から豪華絢爛な山車を繰り出す「とちぎ秋まつり」が有名ですが、「とちぎ山車会館」では、江戸・明治時代の職人たちの技による見事な彫刻と刺繍の山車を常設展示。観光施設だけではありません。中心街に残る古い蔵の数々は、地元野菜の直売所やカフェなど、普通の店舗としても大切に使われているのです。賑わう大通りから一歩奥に入ると、約600年前の創建と伝わる栃木の総鎮守・神明宮しんめいみやうの静寂な境内。「栃木」という地名は、神明宮の社殿の屋根ぐしの「千木」から出たともいわれています。風薫る5月。鯉が泳ぐ巴波川の上に千尾以上の鯉のぼりが風に泳ぐ。「うすまの鯉のぼり」(13日まで)は、いまやすっかり栃木の初夏の風物詩です。そして19・20日には、中心街に残る古い蔵がミニシアターに変貌する「蔵の街かど映画祭」も開催。栃木の文化遺産である蔵は、いまも現役として元気に活躍しているのです。



大正10年竣工の
「栃木市役所別館」は、
国の登録有形文化財。



栃木データファイル

〈東武・蔵の街とちぎ 散策クーポン〉・・・●5つの特典＝①東武往復乗車券 ②東武特急スペース特別割引 ③35軒の加盟店でサービスを受けられる東武オリジナル特典手形 ④東武スーパーチケット ⑤専門ガイド付の散策ガイドツアー（土日限定）
 ◎Aコース(昼食なし) 2200円(1300円) / Bコース(昼食付) 3500円(2600円)～5300円(4400円) *各浅草発料金。()内はこども料金 *詳細はお近くの東武トラベルまで。
〈蔵の街遊覧船〉・・・●交通＝栃木駅徒歩10分、幸来橋付近(塚田歴史伝説館隣り) ●開館日＝毎日*天候や水量の状況により中止の場合あり。年末年始は運休。 ●運航時間＝3～11月は10:00～16:00、12月～2月は11:00～15:00 ●乗船料＝大人500円 / 小学生300円 / 幼児無料 ◎栃木市観光協会 ☎0282-25-2356
〈とちぎ山車会館〉・・・●交通＝栃木駅徒歩15分 ●開館時間＝9:00～17:00(入館は16:30まで) ●休館日＝1～3月・7月・8月・12月の月曜(祝日の場合は開館、翌日休館)、12/29～1/1 ●入館料＝大人500円 / 小学生300円 ☎0282-25-3100
〈とちぎ蔵の街美術館〉・・・●交通＝栃木駅徒歩15分 ●開館時間＝9:00～17:00(入館は16:30まで) ●入館料(企画展)＝一般500円(300円) / 小中学生200円(100円) * ()内は収蔵品展の料金。未就学児童は無料。 ☎0282-20-8228
〈横山郷土館〉・・・●交通＝栃木駅徒歩15分 ●開館時間＝10:00～16:00(入館は15:30まで) ●休館日＝火・水曜(祝日の場合は開館)、年末年始 ●入館料＝大人500円 / 小人300円 ☎0282-22-0159
〈山本有三ふるさと記念館〉・・・●交通＝栃木駅徒歩15分 ●開館時間＝9:00～17:00(入館は16:30まで) ●休館日＝1～3月・7月・8月・12月の月曜(祝日の場合は開館、翌日休館)、12/29～1/4 ●入館料＝一般(高校生以上)200円 / 中学生以下無料 ☎0282-22-8805
〈蔵のまち直売所〉・・・●交通＝栃木駅徒歩10分 ●営業時間＝11:00～19:00 ●定休日＝水曜 *うずまバーガー(560円)は土日限定 ☎0282-25-8231
〈長栄軒〉・・・●交通＝栃木駅徒歩15分 ●営業時間＝11:00～15:00、17:00～20:00 ●定休日＝月曜 ☎0282-22-1114
〈茶房 蔵や〉・・・●交通＝栃木駅徒歩15分 ●営業時間＝10:00～18:00 ●定休日＝水曜 ☎0282-22-7874
〈栃木・蔵の街かど映画祭〉・・・●開催日＝5月19日(土)・20日(日)
 ◎栃木市役所商工観光課「栃木・蔵の街かど映画祭」担当 ☎0282-21-2543

